

新風

平成26年12月26日
多治見市立陶都中学校
No.9

3本柱の一つである合唱祭を終えて…。

多治見市立陶都中学校 校長 松山 央^{ひろし}

12月18日(木)、大きな行事がまた一つ終わりました。インフルエンザの流行や、前日までの天気予報から、当日の開催すら危ぶまれる状況でしたが、お陰様で無事文化会館大ホールをお借りして実施することができました。学級閉鎖を抱えつつ、これ以上の流行を少しでも防ごうと、客席での全校合唱はマスクをしたまま臨むというような変則的なものとなりました。しかしながら、大変熱のこもったすばらしい合唱祭を行うことが出来ました。平日にも関わらず、駆けつけていただいた保護者や地域の皆様、そして学校評議員さんのご参加もあり、子ども達はいつも以上に気合いを入れることができたのではないかと考えております。ご協力ありがとうございました。

私自身、陶都中学校の合唱祭は初めての体験でした。そもそも文化会館大ホールを単独校で使用できること自体、陶都中学校ならではのことで、驚きでした。ステージに立ってみると、素敵な看板と本格的な照明。そして、音響板が周りを囲み、学校では味わうことができないすばらしい雰囲気と音楽環境が整っていました。正に「晴れ舞台」です。このような素敵な場所ですべての学級が合唱を披露できるというのは、実に貴重な体験であり、有り難いことだと感じます。ですから、この舞台にふさわしい心意気とレベルが要求されることとなります。生徒会が合唱を3本柱に位置付けるだけのことはあります。この合唱祭を通して次のような成長を目指したクラスがあると聞きました。



- ・恥ずかしいと感じて、精一杯の声が出せないなら、それは、自分のことだけしか考えていない状態だ。
- ・学級の中で精一杯の声を出せるようになったのは、仲間のことを考えられるようになってきた状態だ。
- ・文化会館のステージで精一杯の声が出せるのは、全校のみんなや、この合唱をわざわざ聞きにみえた保護者や地域の方のことまで考えられるようになった状態だ。

身も心も同じ学級の仲間ゆだね、真剣に、そして思いっきり楽しそうに歌っているその姿と歌声は、見る人聴く人に大変な感動を与えてくれました。こうした合唱は、一朝一夕では出来上がりません。積み重ねる時間と学級の一人一人の成長があってこそ磨かれていきます。学級の成長はこれからも続きます。合唱の取組もこれで終わってはなりません。是非続けていきたいものです。

右の写真は、3年生有志と9組が協力して創り上げた、「夢に向かって充電中」という木材を使った作品で、先日の関市主催の「木の造形作品コンクール」で、見事銀賞を受賞しました。今、職員玄関のホールの所にあるガラスケースに飾ってあります。作品は、来年の干支である羊の格好をしています。受賞の報告と共に、今年を締めくくる学校報ということで、載せさせてもらいました。保護者の皆様方、よいお年をお迎えください。



会釈 (えしゃく)

多治見市教育委員会

車に乗っていて時々出会う光景である。横断歩道で横断を待つ子どもがいるので停車すると、左右の安全を確かめて、横断をする前に会釈をする子どもの姿。また、横断した後に、方向を変えて運転者に向かって会釈する子どもの姿がある。これらの子どもの姿には、学校での登下校時の安全やマナーの指導があるのかもしれない。

先日ある方から、「横断歩道を親子ふたりで渡り、横断後に親が自分も会釈しながら、子どもにも運転者に会釈するように促す姿に出会い、その日一日気持ちの良い日を過ごすことができました。」と聞いた。この話を聞いて、その親子の家庭での様子を想像してみた。

横断歩道は歩行者の方が優先であるし、歩行者に会釈を求めているのでない。

歩いている時などに、地域の方や子どもとすれ違う時に、お互いの軽い会釈で気持ち良い思いが心に広がることが多い。年末年始で大変お忙しい家族もあるが、子どもが家族や地域で過ごす時間もある時期である。家族で会釈の意味を考えてみてはいかがでしょうか。